

大島町復興町民会議 防災まちづくり分科会報告（第1回～8回）

1. 開催概要

■毎週水曜日 18:00 開催 総委員数 12 人

	開催日時	検討事項	資料	参加者
第1回	平成26年 5月21日（水） 18時～20時00分	① 分科会の進め方について ② 分科会で取り組む事項について	・議事次第 ・第1回「防災まちづくり分科会」資料 ①大島町土砂災害復興基本方針 ②防災避難計画に係る住民説明会ならびに地域防災連絡会の開催 ③平成26年度大島町「防災まちづくり関係予算」主な事業の概要 ・大島町事前行動計画（タイムライン）の策定および進め方について	分科会委員 11 人 オブザーバー1名
第2回	平成26年 5月28日（水） 18時～20時00分	① 第1回分科会の主な意見を受けて ② 分科会で取り組む事項について（継続） ③ その他	・第1回防災まちづくり分科会概要 ・防災避難計画に係る住民説明会ならびに地域防災連絡会の開催 ・第1回検討のまとめ	分科会委員 11 人
第3回	平成26年 6月17日（水） 18時～20時00分	① 第2回分科会の主な意見を受けて ② 分科会で取り組む事項について（継続） ③ その他	・第2回防災まちづくり分科会概要	分科会委員 8 人
第4回	平成26年 6月20日（金） 18時～20時00分	① 第3回分科会の主な意見を受けて ② 全体会に向けたまとめについて ③ 委員からの提案事項について ④ その他	・第3回防災まちづくり分科会概要 ・第3回までの防災まちづくり分科会概要	分科会委員 9 人
第5回	平成26年 6月25日（水） 18時～20時00分	① 第4回分科会の主な意見を受けて ② 町民会議への報告について ③ その他	・第4回防災まちづくり分科会概要 ・第4回までの防災まちづくり分科会概要	分科会委員 8 人
第6回	平成26年 7月2日（水） 18時～20時00分	① 今後の分科会の予定について	・第5回防災まちづくり分科会概要	分科会委員 10 人
第7回	平成26年 7月29日（火） 18時～20時00分	①防災まちづくり分科会に寄せられた意見について ②復興計画素案への分科会報告内容の反映状況について ③その他	・復興町民会議防災まちづくり分科会報告 ・委員提示資料（2名）	分科会委員 9 人

第8回	平成26年 9月4日(木) 18時～19時30分	①大島町復興計画案について質疑 ②復興計画案に対する分科会からの意見・要望 ③復興の推進体制について	・復興町民会議防災まちづくり分科会報告 ・大島町復興計画案	分科会委員10人
-----	--------------------------------	----------------------------------------------------------	----------------------------------	----------

## 2. 主な意見等

	テーマ	主な意見等
第1回	分科会の進め方について等	<p>○会長の選任について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦により、山田委員（公募）が会長とすることで承認された。</li> </ul> <p>○副会長の選任について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦により、阪本委員（公募）が副会長とすることで承認された。</li> </ul> <p>○分科会の進め方について</p> <p>次の4つの柱に沿って議論を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災計画の検証</li> <li>・土木施設、ハード対策について</li> <li>・住民への啓発、情報周知のあり方（体制）について</li> <li>・防災教育について</li> </ul> <p>○議論の取りまとめ時期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討内容を6月末までを目処に取りまとめ、復興町民会議にあげる。</li> <li>・7月目処に緊急性の高い短期的対策（計画の検証等）について、それ以降は長期的対策（防災教育等）を考える。</li> </ul> <p>○分科会で取り組む事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会で取り組む事項について委員の意見を付箋に書き出し取りまとめ、以下の分類となった。</li> <li>①避難所、②避難情報（発令等）、③安全な避難の方法、④被災状況、⑤砂防対策、⑥防災意識、⑦避難基準、⑧その他の災害</li> <li>このうち、第1回では①避難所、②避難情報（発令）について意見の確認が行われた。</li> <li>次回以降、残りの項目について引き続き検討していく。</li> </ul>
	①避難所	<p>○環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適でないと避難が必要な場合にも避難がされない可能性がある</li> <li>・設備だけでなく運用も避難者の状況に合わせて行う</li> </ul> <p>○安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の安全性が確保されていることが大前提、避難計画を確認する必要がある</li> </ul> <p>○規模</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模な避難所について検討</li> </ul>
	②避難情報	<p>○行政の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災行政無線、ホームページ、出張所の地図や説明会などいろいろな情報提供を行い、周知徹底を図る</li> </ul> <p>○町民の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の命は自分で守ることが根底になければならない</li> <li>・行政の役割として情報提供と周知徹底があるが町民も受け身のままではいけない</li> <li>・情報を待つだけでなく、町民も身近な自然からの情報に注意することも意味がある</li> </ul>
第2回	第1回の確認と第2回以降の進め方について	<p>○第1回の確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回、4本の柱を立て、そのうち1本目の柱（防災計画）について付箋に書き出しを行い8本の小項目が抽出された。</li> <li>・小項目のうち「避難情報」、「避難所」については議論を終えている。</li> </ul> <p>○第2回以降の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回は③安全な避難の方法、④被災状況、⑤砂防対策について検討する。</li> <li>・なお、4本の柱について、「防災計画の検証」には、砂防・土木施設の内容が含まれているので、4本柱のうち「土木施設・ハード対策」については1本目の柱（防災計画の検証）に含める。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月末までには、1本目の柱を取りまとめることを目標とする。</li> </ul> <p>○次回の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回開催は、避難計画の説明会終了後の17日とする。議論が終わらなかった場合の予備日として、20日を設定する。</li> </ul>
	③安全な避難方法	<p>○住民の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災のあった地区とその他の地区では温度差がある。その意識の差をどう埋めていくかが課題である。</li> </ul> <p>○地域での共助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の互助力が大切である。どこに自分で避難できない人がいるかを把握し、体制を作ることが安全な避難につながる。</li> <li>・地域に特性に合わせて地域ごとで自主防災組織の編成を考えていくのが現実的である。</li> <li>・安全な避難をするためには、避難する時間帯が重要になる。</li> </ul> <p>○防災に係る情報の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠くても安全な道を通って避難するというのを訓練でしておく必要がある。</li> <li>・危なくなってから逃げるのでは遅い。空振りを恐れず逃げることをやり続けると今後の災害には対応できない。</li> </ul>
	④被災状況	<p>○道路の冠水について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上げられた被災状況は道路の冠水が主な内容だが、これに関しての要望が元町地区の住民からだされており、町地域整備課で検討されていることが事務局より報告された。</li> <li>・都と町と連携して道路の排水機能強化を検討している。</li> </ul>
	⑤砂防対策	<p>○砂防対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大島の浸透性がよい地質を生かして海に流す前にいかに雨水を浸透させるかという考え方も重要ではないか。</li> <li>・斜面の浅い地下水に考慮した対策を検討してほしい。</li> </ul>
第3回	第2回の確認と第3回以降の進め方について	<p>○第2回の確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柱1「防災計画の検証」柱2「土木施設、ハード対策」で検討中の8小項目のうち「①避難所」、「②避難情報」、「③安全な避難の方法」、「④被災状況」、「⑤砂防対策」の議論を終えたことを確認した。</li> <li>・配布資料「第2回までの防災まちづくり分科会概要」（事務局作成）の内容について了承された。</li> </ul> <p>○第3回以降の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小項目「⑥防災意識」、「⑦避難基準」、「⑧その他災害」について検討した後、別途行われた避難計画の地区説明会について、柱4「防災教育」についての意見出しを行った。</li> <li>・27日（金）開催予定の全体会に向けて、避難計画の地区説明会への意見出しと検討のまとめを行う。</li> <li>・全体会以降は、土砂災害以外を含めた総合的な防災対策について検討する（予定）。</li> </ul> <p>○次回の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回開催は、6月20日（金）とする。</li> </ul>
	⑥防災意識	<p>○住民の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難計画説明会に若年者や転勤者の出席が少なかった。</li> <li>・防災意識を維持するために訓練やイベント（植林など）等、工夫が必要。</li> </ul> <p>○町からの発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップ等の配布物で町民の興味を引くのが必要。出張所などでスライド等を共有したり、地域の活動で個別訪問での説明があると全ての人が理解できる。</li> <li>・任意の団体が学習会を開催しているが、学習の機会は多い方が良い。</li> <li>・町としても積極的に情報発信し、防災に対する本気度を伝えていくことが重要。</li> </ul> <p>○自主防災組織</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災意識の向上にも自主防災組織は重要。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災の知識を身に付け、自分の判断で行動するという意識を分科会から発信する。</li> </ul>

	⑦避難基準	○現状への危惧 ・避難勧告の空振りが多くなり災害危険度が軽くみられることへの危惧。 ・避難勧告の空振りを恐れて発令を躊躇するという話があるが、空振りを恐れないためには住民自身が正しい知識を持ち納得することが必要。
	⑧その他	○避難計画 ・自主防災組織の班長は、災害種別に応じた避難方法を知っておく必要があり、班長を中心に住民へ確認しておくべき。 ・土砂災害ばかりに目が向いてはいけない。 ・災害種別に応じた避難計画を整備、活用していく必要がある。
	防災教育	○生涯学習 ・大人への教育を町がどうやってサポートし町民が答えるか。 →勉強会などをコンスタントに続け、参加できない人へも働きかける。 →視聴覚教材の準備。 ○学校教育 ・教師への研修は町教委がリードすることで住民としての意識向上にもつながる。地域の勉強会に教員が研修として参加することも地域にとって有効。 ・防災副読本の作成、地域の伝承や昔話などを盛り込む。 ・「大島は危険で怖い。どう逃げる」だけでなく、自然と共に住む魅力も伝えることが重要。 ・フィールドワーク等で島全体を学ぶことが必要。 ・中学生は避難行動が定着していた。確実に効果が出る。 ・PTSDになっている子どももいるので配慮が必要。 ・警報発令時における学校行事等の統一した開催基準が必要。 ○災害現場・災害遺構 ・生きた教材として島外に発信することも考えられる。 ○地域防災スペシャリスト ・地域に精通した防災スペシャリストを育成し、学校教育の現場にも参画。
	避難計画説明会を受けての補足	○避難所 ・安全性の説明が必要。 ・一部の避難所のみペット受入可能というのは不公平に感じる。 ・収容人員、駐車場の問題（特に警戒を要する地域以外の方が自主避難した場合）。 ○避難経路 ・警戒を要する地域を通過する経路がある。 ○その他 ・消防団詰所の安全確保が必要。 ・観光客等の避難方法・避難場所について、観光関連事業者への周知。 ・自主防災組織について再確認する必要。
第4回	第3回の確認と全体会に向けたまとめについて	○全体会に向けたまとめについて ・第3回分科会までにすべての柱と小項目について検討を終えたことが確認された。 ・これらの検討をまとめた資料案を会長が取りまとめ、第5回分科会で、各委員に確認を頂く。 ○次回の開催について ・次回開催は、6月25日（水）とする。
	委員からの提案	○土砂災害への人工構造物の影響について ・住民の多くが人工構造物の影響を懸念しているので調査を要望したい。 ・本当に御神火スカイライン関係ないのかという意見は住民の中にあり、学会などで説明されたが、住民はすっきりしていない。 ○橋の流木対策について ・新しく作る橋については出来るだけ流木が引っかからない構造にして欲しい。 ・単に復旧するのではなく、なるべく被害を広げない方法を考えて再建して欲しい。

	避難計画説明会について	<p>○自主防災組織の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泉津は土砂災害に関しては自主防災組織ではない、独自の取組みを検討していて、住民みずから行動するという点で非常によい取組みである。</li> </ul>
	情報収集・伝達について	<p>○情報の共有について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民から行政、さらに住民相互の情報共有が必要で、大切なことである。</li> </ul> <p>○情報収集伝達手段</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツイッターやインターネットだけでなく、広く情報共有をするための方法を検討の課題としてあげるのは良いのではないかと。</li> <li>・若い世代が情報をキャッチして高齢者に伝える仕組みを考える。</li> </ul> <p>○住民の主体的な情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民からの情報を集めるシステムというのは非常に大事なことである。(但し、正確性を担保する仕組みの検討が必要)</li> <li>・住民が避難所で情報を知ることが出来るようにして欲しい。</li> </ul>
	避難所について	<p>○物資等の備蓄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物資の備蓄がない避難所があるため、要望していきたい。</li> </ul>
第5回	第4回の確認と全体会に向けたまとめについて	<p>○全体会に向けたまとめについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会に向け、これまでの議論をまとめた報告書を作成した。</li> <li>・本日の意見を追加・修正し、会長が全体会で発表する。</li> </ul> <p>○次回の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回開催は、7月2日(水)とし、今後の進め方について検討する。</li> </ul>
	中間報告書への追加・修正について	<p>○避難所について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所へのペット受入れについての記載に関して、「避難所へのペット受入れについて今後検討をして欲しい」と表現を修正する。</li> </ul> <p>○砂防対策について(柱2含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・御神火スカイラインの記述、「復旧は必要」の文言を削除する。</li> <li>・斜面の浅い地下水を考慮した対策～の記述に、「地下水を逃がす方策を合わせて検討する」旨を追記する。</li> </ul> <p>○その他に追加したい事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災スペシャリストについて、外部の専門家(自衛隊OB等)を雇い入れ指導者としている例がある。</li> </ul>
	避難について	<p>○避難所でのペットの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットを置いて避難というのでは心が落ち着かないという人もいるだろう。</li> </ul> <p>○避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元町で避難訓練をしようと言っても人が集まるだろうか。</li> <li>・自主防災組織が機能するためには、実際にやってみることが必要。</li> <li>・地域特性に合わせて自主防災組織の編成とあり方を考えていくことが必要。</li> </ul>
	土砂災害対策	<p>○雨水浸透</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降った雨水を浸透させることを考えたほうが良いのではないかと。</li> <li>・地下水を逃がすような仕組みを砂防と併用して欲しい。</li> </ul> <p>○三原山の土砂災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・崩れたところの対策が決まっていなのに御神火スカイラインを復旧するというごときに疑問がある。</li> <li>・専門家に現場を見て検討してもらいたい。</li> </ul>
第6回	第6回の議題について	<p>○第6回の議題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の全体の流れがどうなっていくのか、町の説明を受け、その中で分科会としてどうしていくのか意見交換を行うこととした。</li> </ul> <p>○今後の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町民会議への復興計画素案の説明を受けて、分科会からの意見についての肉付けや、素案について意見交換を行う。</li> <li>・次回は7月29日(火)を予定する。</li> </ul>
	第3回町民会議に	<p>○町民会議の進行について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会は回数も少ないのだから、もっと意見交換が出来る形にしてもらえるよ</li> </ul>

	ついて	うお願いしたい。
第7回	防災まちづくり分科会に寄せられた意見について	<p>○防災まちづくり分科会中間報告への意見への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と共生する視点に立った防災対策全般についての意見であり、分科会報告においても取り上げられている内容であることから、特に対応について検討は行わない。</li> <li>・改めて重要な内容であるため、分科会委員にはご意見を資料として配布する。</li> </ul>
	復興計画素案への分科会報告内容の反映状況について	<p>○方針① 台風26号に伴う豪雨災害の検証と地域防災計画の改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「4-1-1 台風26号に伴う豪雨災害の検証」とはどういった検証を行うのか。</li> <li>・p.17の方針の記述について、噴火などの記述もあったほうがよい。「4-4-4 災害危険や状況の変化に対応した避難計画の改訂」も同様である。</li> </ul> <p>○方針② 災害情報の連絡体制の再構築</p> <p>「4-2-2 町民への情報伝達手段の整備」について、ホームページはインターネットとしたほうが良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害情報に関して、住民からの情報を共有するシステムについても記述すべき。</li> </ul> <p>○方針⑤ 避難施設の強化等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「4-5-7 避難施設の強化」が後期の施策となっているが、前期に入れるべき。</li> <li>・「4-5-8 防災マップ等の改訂」は、防災マップがどういう情報で出来ていて、どう改訂され、どういう状況のときに最新の情報が提供されるのかを知りたい。</li> <li>・備蓄庫やペットへの対応については記載するべきではないか。</li> </ul> <p>○方針⑥ 災害教訓の伝承と地域防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「4-6-3 災害の記録の作成」に、「子供たちへの防災教育のため、防災副読本の作成を進める。」を追記してはどうか。</li> <li>・「4-6-4 災害教訓を伝える資料整備」に追記で、復興の柱3方針④観光振興の推進「新たな観光資源の整備と活用」を再掲してはどうか。</li> <li>・「4-6-6 災害教訓の伝承」では「副読本」を編纂して、今後起きうる事態にどう対応していくかを整理して伝えていくべき。</li> <li>・災害の記録誌・復興の記録誌の他に、子供たちの防災教育の副読本は別途作成する必要がある。</li> <li>・災害がなぜ起きたか、大島がどう復興したかを映像でも残す方がよい。</li> </ul>
	その他	<p>○委員からの提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案については、個人的にパブリックコメント等で提出することとした。</li> </ul>
第8回	大島町復興計画案について質疑	<p>○「大島らしい」とはなにか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興計画案 p.4「安心と笑顔があふれる美しい島」というところに、大島がどんなところかということが書いてあるが、ここに書いてあることは大島だけに限らない。もう一歩進んだフレーズを引き出せればよいのではないか。</li> <li>・人との係わり合いは前提として、大島の自然環境や慣わし、先人の知恵を大事にしていくのが「大島らしい」につながるのではないか。</li> </ul>
	復興計画案に対する分科会からの意見・要望	<p>○方針⑥ 災害教訓の伝承と地域防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興計画案 p.22、主な施策の「4-6-3 災害の記録の作成」について、「子供たちへ今回の災害を伝えるため、副読本を作成します。」と追記されたが、災害を伝えるだけでなく、防災意識と防災力を向上させるという目的が、はっきりとわかるように記述をあらためるべき。</li> </ul> <p>○方針② 災害情報の連絡体制の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興計画案 p.19に追加した「町民が周囲で覚知した～」について、運用はよく注意する必要がある。</li> <li>・使えない人がいるから、やらないということにはならない。完全なシステムとしてはスタート出来ないが、少しずつやり始めていくのがよいのではないか。</li> </ul> <p>○方針⑤ 避難施設の強化等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間伏と野増で新規整備を検討しているほか、全地区の見直しを検討している。島内避難体制の再構築と合わせてご意向を伺って詰めていく。</li> </ul> <p>○全般</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織との連携に向け、組織の再編が非常に重要である。</li> <li>・(長期避難について) 一時提供住宅や応急仮設が出来るまでの間については、宿泊施設の利用や空家対策などと合わせて総合的に考えていく。地域防災計画見直しと合わせて具体化していく。</li> </ul>
復興の推進体制について	<p>○全体の推進組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家、研究者を体制に加えて幅広い意見を取り入れていくことが必要。アドバイザー的な立場からの話や、先端の研究結果などをフィードバックしてもらえるような仕組みが合ったほうがよい。</li> <li>・住民が誰でも自由に参加できる場が必要だと思う。</li> <li>・町と町民と都との連携を継続して、良い復興まちづくりができるように住民としても参加できるような組織にしてほしい。</li> <li>・組織が成長したり、変化しても良い。まず始めてみて育てるしかない。</li> <li>・なるべく早く推進組織を立ち上げ、テンポよく進めていくことが必要。</li> </ul> <p>○元町地区における推進組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容によってはメンバー、傍聴の制限をする場面が出ると思うが、原則としては島全体の声を元町地区の復興のために出していくことが必要となるのではないかな。</li> <li>・被災者以外が入れない部分も残し、まちづくりには被災者以外の町民も参加する部分が欲しい。</li> <li>・元町の被災者・地権者中心の組織と大島町民全体が参加できる組織、双方が元町地区の復興まちづくり計画について考える仕組みにしてほしい。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区ごと、全島的な防災体制のあり方について復興とともに検討することが必要で、それを検討する組織が必要となるのではないかな。</li> <li>・平成 27 年度に新たな基本計画を策定するので、あえて新たな組織を作らなくても地区ごとに検討することが出来るだろう。そこで防災まちづくり分科会で意見を出してきたことが活かされると良い。</li> <li>・復興計画だけでなく、地域ごとに自治区をつくるように住民との協働ということをうまく膨らませたい。</li> </ul>
その他	<p>○全体会のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会は、報告があってそれに対して質疑だけというのでは勿体無いと感じた。今後どうするかというような話は全体会で話し、分科会でさらに詰めるということでも良かったのではないかな。</li> </ul>

## 第8回 防災まちづくり分科会 議事要旨

1. 日時 平成26年9月4日(木) 18:00~19:30

2. 場所 町役場庁舎1階 研修室

### 3. 議事

以下の3題について確認と検討を行った。

- ・大島町復興計画案について質疑
- ・防災まちづくり分科会で検討してきた内容の計画案への反映状況について
- ・復興の推進体制について

### 4. 主な発言等

#### ○大島町復興計画案について質疑

- ・復興計画案 p.28-29 について、「大島らしい」という言葉が7回も入っているが、「大島らしい」とは具体的にはどういうことか。言いたいことは分からないでもないが、定義があやふやな言葉であり入れない方がよいのではないか。(委員)
- ・「大島らしい」については、今後、復興計画の事業を進めていくにあたって、町民が参加する推進体制でも引き続き「大島らしさ」とは何かということを検討していきたい。「大島らしさ」の中身を事務局から提示するものではない(事務局)
- ・「らしさ」とは作っていくものである。大島らしいものを作っていこう、気づいていこうということではよいのではないか(委員)
- ・復興計画案 p.4 「安心と笑顔があふれる美しい島」というところに、大島がどんなところかということが書いてある。ここに書き切れていないものもあるだろうが、ここから出発していきたいと思う。(会長)
- ・復興計画案 p.4 について、ここに書いてあることは大島だけに限らない、色々なところで共通するものではないのか。もう一步進んだ、こういったもの(フレーズ)を引き出せばよいのではないか。(委員)
- ・大島らしいということを言うには自然環境を抜きにはいけないのではないか。島嶼であり、火山島であり、昔から水を大切にしてきたとか、歴史とか自然を大切にしてきたということが大島らしさのひとつである。人と人との係わり合いとはどこにもあることで、それを前提として、この大島の自然環境や習わし、先人の知恵を大事にしていくことが「大島らしい」につながるのではないかと思う。これからも、大島の自然を大切に、どんどん開発していくのではなく、大島らしい自然を残していくにはどうしたらよいかという視点も大事になっていくのではないか。(副会長)
- ・繰り返しになるが、ここに書かれていることが全てではないが、p.4 に書いてあることを出発点にこれから考えていけばよいのではないだろうか。(会長)
- ・人によって大島らしさは違ってよいのだが、違うものをこういう言葉で表すのではなく、もっと具体的な言葉でそれぞれ表していったほうが自然ではないのか。(委員)
- ・大島らしいというのは個々に違うもので、これまでそのあたりが議論されていなかった。復興計画



はこのままで、これを問題提起として今後考えていけばよいのではないか。(事務局)

## ○防災まちづくり分科会で検討してきた内容の計画案への反映状況について

- ・ p.19 で追加してもらった内容（「町民が周囲で覚知した～」）だが、災害時の情報というのはすごく混乱する。これを具体的にどうするのかは決まっていないと思うのだが、すべてが正しい情報とは限らない。どこかで確認して流すのであればいいが、そのまま誰でも見られると言うことになると、それはどうなのかという気がするが。(委員)
- ・ ご指摘と同じような内容が、分科会の中でも議論された。結果としてふさわしいやりかたを検討していくということになった。(会長)
- ・ ツイッターの話では、デマが流れるのではないかという話だが、広島のと砂災害でツイッターにデマが流れていた。マスコミが食品を買い占めていて被災者は食べ物が手に入らない状態にあるというデマが広がった。一方ですぐにそれはデマであるということを地元の人がツイッターで打ち消した。(委員)
- ・ ツイッターのように誰でも投稿して見られるものを使っていけば、必ずデマなど間違った情報は出るが、打ち消す情報も出るし、間違った情報を遮断するというのは現実的に難しい。ある程度デマが流れても情報が集まってくるほうがよいのか否か、利便性の問題であって、ある程度情報があるほうがよいと思う人のほうが多いと思う。(委員)
- ・ こういったものは使っていないとリテラシーがあがっていかない。皆が使ってリテラシーがあがれば、どの情報が正しいのか取捨選択できるようになる。現状テレビしか手段がありませんという生活では、テレビの情報をそのまま信じるしかない。情報を取捨選択するという機会がないはずである。大島のと砂災害ではツイッターでの情報はあまりなかったが、広島では地元の人が写真をとってあげたり、ツイッターで情報がすごくたくさんでたところが違う。やっていくなかで問題やトラブルは起こるだろうが、完全なシステムとしてはスタートできないと思うので、少しずつやりはじめていくのがよいと思う(委員)
- ・ 重要なのは、被災する前に情報をいかに早く皆に知らせるかで、それをツイッターが担ってくれるなら万々歳である。被災する前に、水が多く出ているとか石が転がっているとか、巡視している人や公的機関から情報を流すことができるのではないか。役場としてその情報を流すことによって皆が見られると言うことが重要であるし、情報としてどこが発信しているかという時に、公的機関であれば信憑性が高い。そのようなシステムを考えているということであれば、大きな成果になるだろう。災害が起きる前の状況と起きたあとの体制をどうするかというのは違う話だと思う。(委員)
- ・ どこがどんな情報を提供しているかと言うことが重要なのであり、そういったシステムのありかたを今後検討していくのは重要だと思う。(委員)
- ・ 役場が発表してくれれば一番信憑性があるのだが。(委員)
- ・ 役場でも委託した業者でもいい。ただ、問題として(システムを)使わない、使えない人たちのことは残る。(委員)
- ・ 使えない人がいるからこれはやらないということにはならない。(会長)
- ・ 「防災おしまツイッター」や、公共情報コモンズなど新しい仕組みは積極的に使っているので活用していただきたい。(事務局)
- ・ 高齢者が木の芽をインターネットで販売していて、生業として成功していると言うのを聞いたことがある。簡単な端末を皆が共有できるようになればよいと思う。ゲリラ豪雨などこれまでと違った

災害が起きているので、公共の放送機関だけを頼ることができなくなっている。ツイッターのつぶやきを集めて信憑性の高いものを抽出するようなシステムを作っているという話も聞く。そういったものを活用するという方向性で行けば良いのではないか。(副会長)

- ・ 1000 円スマホというものがでてきた。高いからスマホは使わないと言う人がいるが、こういうものを使えばお金をかけずに出来るという時代になってきている (委員)
- ・ 計画案 p.22 の避難所施設の新規整備について昨日説明を受けたが、具体的にはどこを考えているのか。波浮の一番地に住む人から、避難するときクダッチ老人福祉館に行く人と、波浮の老人福祉館に行く人と別れるという話があった。距離的には上のほうが近いが階段がある。もしかするとクダッチのほうが近いかもしれない。どちらに行けばよいのかということを言われた。また、避難時に怪我をしたり、病人の症状悪化など考えられるが、そういうときに元町の医療センターに搬送するのではなく、かつての南部診療所をつかえるようにできないかということ言われた。今後検討していけないか。(委員)
- ・ 間伏と野増が土砂災害では避難所が使えないため、設置を考えている。また、全地区の見直しを今後考えている。避難計画については、p.21 の島内避難体制の再構築のところで自主防災組織の再編なども進めているので、避難所はどこがいいかなどご意向を伺って詰めの作業にはいっていくと思う。(事務局)
- ・ 計画案に自主防災組織と連携しますと、そこかしこに書かれている。例えば、4-5-2 避難経路の見直し(「地域ごとの特性および町道の整備に合わせ、自主防災組織との連携により避難経路を見直します」)は、前期に書いてある。そうすると、自主防災組織の見直しもさることながら、すべての避難所とどういうふうに経路が安全だろうか、車で逃げても良いだろうかなど、そういうところを早く着手することが必要だと思うので、まず復興計画を作成するのが第一だが、その後は自主防災組織の再編が非常に重要な仕事になると期待している。(委員)
- ・ 6月に、町が自主防災組織の班長を集めている。その検討と経路の問題と避難所の設定の問題を話し合っている。私は、その結果の報告はもらっていないが、そういう話し合った中身がどこまで進んでいるのか情報が提供できればいい。(委員)
- ・ 進んでいる地域があるのであれば、その情報を早くもらえればそれに応じて、都道の立場で出来ること、町道でやらなければいけないことの話ができる。前期はわずか3年しかない。急いで進めなければならぬと思ったため発言させてもらった。(委員)
- ・ 計画案 p.22 の4-6-3に「子供たちへ今回の災害を伝えるため」とあるが、あくまでも防災教育のためであって、防災意識の啓発、防災力の向上のための副読本を作成しなければならない。そうでなければ単なる記録誌になってしまう。文言変更をしてもらいたい。(会長)
- ・ 計画案に書いていないことであるが、長期避難がどういうふうに調整されているのか知りたい。もうひとつ、先日の広島土砂災害というのは、あれほどの雨が降ると言うことが事前に予測されていなくて突然降り出して1時間で災害にいたっている。これまでは台風がくるから事前に避難しましょうという風に考えられたが、こういうパターンの場合、避難しようとしても時間がなさすぎる。こういうことも考えていかなければならないと思ったがいかがか。(委員)
- ・ 長期避難とはどういう意味か。(事務局)
- ・ 住む家がなくなって避難所へ行った後、移動先がなくて避難所にずっといることになる場合を考えている。(委員)
- ・ 今回の災害で学習して、今後検討していくなかで、一時提供住宅や応急仮設ができるまでに、例え

ば宿泊施設の利用や空家対策などとあわせて総合的に考えていきたい。また、今後、地域防災計画の見直しを控えているのでその中で具体化していきたい。(事務局)

- ・長期避難とは、仮設住宅での期間も含まれているか。(委員)
- ・仮設住宅が出来るまでの間のことで言っている。今回はたまたま教職員住宅が空いていて入れてもらえたが。(委員)
- ・分科会で議論した内容を大体入れて頂けたのではないかと。また、策定委員会委員の意見交換の内容も入っている。完全とはいえないがよいのではないかと。ただし、事務局の言うように、復興計画の内容をどう具体化していくかということが重要なのであり、会長が言った通り案をここで提案して検討していくということに移っていくと思われる。(委員)

#### ○復興の推進体制について

- ・昨日も説明があったが、推進体制については、まだ具体化されていないということで、こんなふうにはこの組織をつくって欲しい、こんな風に運営をして欲しいという案を出していくのが、我々の最後の仕事と思う。従って、この組織はこういうふうにしたら良いではないかということで発言していただきたい(会長)
- ・計画面 p.32 の図では、専門家、研究者が体制に入っていない。研究者等とのパイプを加えてもらいたい。研究者によっていろいろな意見があるので、幅広い意見を取り入れていくことが必要だと思う。いろいろな見地から避難であるとか防災対策や復興ならばまちづくりなどいろいろな方からアドバイザー的な立場で話が聞けたり、先端の研究成果などをフィードバックしてもらえるような仕組みがあったほうが良いのではないかと。(委員)
- ・計画面 p.32 の組織図自体が良く分からないのでもう一度説明してほしい。(副会長)
- ・復興計画全体に関わることは、「復興計画全体の推進組織」を立ち上げる。ここが本部、まちづくりの組織である。ただし元町については、今後自分の土地がどうなるか等、色々な調整があるので、連絡・意見交換の場として「元町地区における復興まちづくりの推進組織」を別に立ち上げる。大きくはこの2つの組織で実施計画を進めていくことを考えている。具体的なメンバーについては皆さんのご意見を聞いて考えていきたい。(事務局)
- ・元町地区における～に書いてある「住民」は、被災住民ということか。それとも元町地区の住民か。(委員)
- ・8日に元町のまちづくり分科会もあるので、ある程度のことが整理されれば、被災者に限定することは考えていない。元町をどうしていくのか、被災者の声を聞くのが一番大切なことであるが、元町という大島の玄関口をどうするかということを考えるのは全島的なことである。ご意見として元町地区以外の方がいたほうがよいとか、状況によって進捗によっては、全体で考えた方がよいのだというご提案を頂ければそれを踏まえて検討していくという段階である。(事務局)
- ・実施計画についてもこの推進組織の委員会で議論することになるのか。(委員)
- ・平成28年度以降の事業は恐らくここで積み上げることになるが、平成27年まではすでに予算要望は動きだしているものがある。そういう中で組織を立ち上げた時に、平成27年度事業については、経過を説明し変更できるものは変更するが、平成27年度については動き出しているものもあるということの説明を進めさせて頂くことになる。(事務局)
- ・実施計画についても議論するという理解でよいか(委員)
- ・それはご意見を承って、例えば実施計画をどういう形で議論していくかということまでは詰められ

ていない。(事務局)

- ・それをするようにして頂きたいということを出していくのが、この議題での目的である。(会長)
- ・なので、意見を言って頂きたい。(事務局)
- ・28年度の予算に向けた実施計画を、ここで確実に実行していける体制を作っていくことが予算上必要である。その作業をする組織がないといけない。(委員)
- ・元町地区の復興まちづくりをだれが中心になって推進していくのかということが、引っかかっている。被災者がそれを考えていくのか、元町地区の人たちが被災者を含めて考えていくのか、それとももっと全島的に考えていくのかというのは重要な論点ではないか。昨日の繰り返しになるが、これまで元町の被災者に限って会議を持ち、傍聴も出来ないという形でこれまでやってきたが、これからどうするかということになると、内容によってはメンバー、傍聴の制限をする場面が出てくるが、原則としては島全体の声を元町の復興ということを出していくということが、これからは必要になっていくのではないかとというのが、私の思いである。例えば、観光のほうでも丸塚から神達の被災したところを後世に伝える、発信する場としていこうというアイデアがでて取り入れられているが、意見は出したがあとは元町の人をお願いするというのではいかがかと思う。もっと広げたらよいのではないか。(委員)
- ・委員がおっしゃったように、被災者の生活再建支援策に基づくものは従来どおりにやっていく必要があるが、まちづくりとなったときには、ご意見としてあげていただければ議論として詰めていく。(事務局)
- ・各分科会でまだ具体的な道筋が見えていないのではないか。だから、9月までの期限では決着ついていないところがいくらかあって、こういう形で続行するという意味合いがあって、元町限定にしているのではないかと想像していた。土地利用についても、大まかには出ているが、遺族の方たちのことも含めてすべての決着がついていないから、被災者以外が入れないところがあるのはとおいてよいと思う。だが、それ以外のところで元町地区の今後というところでは、別個で被災者以外の人が考えるところが欲しいと考えている。(委員)
- ・被災者の方たちに、住宅再建などについて漠然とした形では示しているが、いろんな案を具体的に示せる時期を、ある程度の時期に設定して個々に詰めていく必要があると考えている。それ以外については、意見を上げて頂いてケースバイケースで町は動きを決めて行きたいと思っている。(事務局)
- ・ここまでの話をお聞きしていると、元町地区の推進組織は、被災者とか地権者とか実質的に公開できないことを推進していく場であり、(公開されないのであれば、組織として)分けなくても推進組織というところでは一緒に良いのではないか。全体の推進組織で大島全体に関われるじゃないかとおっしゃいますが、元町の被災者だけに特化したところに入ることはできないが、例えば元町の港をどうするかというのは大島町全体の問題である。復興計画全体の推進組織と二つに分ける意味が分からない。(副会長)
- ・最終的には、復興計画全体の推進組織で意見を集約する。元町地区については、先ほどご指摘があった通り、自分の宅地がどうなるとか、例えばなくなられた方との相続等整理しなければならないことがたくさんあって、それによって整備計画も変わっていく。この組織がないことには、復興計画に示した案についても実際に出来るのか、修正が必要だとか色々出てくると思われる。これがないと、進めて行くことが難しくなる。(事務局)
- ・元町の推進組織のところにある「住民」という言葉は「町民」ということで考えてよいのか。(副

会長)

- ・そういうことを、元町のまちづくりについては、整備段階に合わせて町民全員で考えたいというご意見があれば、今回この場でご意見を賜りたい。住民は元町に限定するというのではなく、皆さんのご意見を伺って決めていきたいという段階である。(事務局)
- ・元町の被災者、地権者中心の会があってもよいと思う。それとは別の大島町民全体の会の2つ推進組織があるのがよいと思う。ただ、その2つの組織両方で元町のことを考えてよいというふうにしてほしい。まず元町地区の人たちのほうで考えてからとか、別ですというのがなければ良いと思う。(委員)
- ・産業・観光復興支援分科会が開かれているが、大島町にとって観光・産業は切り離せない存在である。大島町全体の推進組織ではあまりに大きな組織になりすぎて、観光分野、産業分野というのをどれだけ包括できるかという疑問で、若い方がどれだけいらっしゃるかという微妙である。これから大島を盛り上げていこうという方々が、今回の観光産業分科会は、もともと復興町民会議という母体があって、災害があったからこの機会に考えようという集まりだった。一旦復興計画が出た後は、前を向いて観光や産業を盛り上げていこうという人たちが集まって、これまでは個別で頑張っていた人たちがいたと思うが、そういう人たちが結集するいいチャンスであると思う。復興計画の中でなくても良いが、全島的に盛り上がっていくような観光や産業を考えていく組織体はあったほうがよいと考える。(委員)
- ・防災まちづくり分科会についても、今度は地区ごとにどうしていくか、大島町の防災計画がすでにある。なおかつ地区ごとに避難経路の見直しや、自主防災組織の再編成をしたり班長を変更したりしてがらっと変わる。そういうことを含めて資料を頂いて、地区ごと、全体的な防災体制のあり方について、今回の復興を絡めながら検討することが必要である。そのためにも、防災まちづくりを考える組織を作って欲しい。(委員)
- ・各地区でも推進組織をつくってもよいのではないかと。そうすれば各地区の具体的な防災対策なども考えられるし良いのではないかと思う。(委員)
- ・そうすると、誰がまとめるかとか問題がある。我々が議論する時に、各地区の知識を頭に入れないと議論できないから地区へ話を聞きに行くなどは良いと思う。(委員)
- ・苦勞すると思うが地区ごとでやってみたらよいと思う。7地区でやるか、南部北部中部でやるかということはあるが。(委員)
- ・9月でこの会がしまつたあと、産業・観光復興支援分科会はこの流れを汲んで別のメンバーが入るなりしてこのテーマについて考える団体を持ち続けるということを知っているが、p.32の図には、新しいものとして観光産業は入っていないが却下されてしまったのか。(委員)
- ・却下ということではない。最終的にどうなるかは分からないが、今回のように全体の推進組織の下に状況によって分科会のようなものを持ってやっていくということも考えられる。(事務局)
- ・図になかったため、却下されたと思った。どういう形でこの図の中に入ってくるか分からないが、ぜひ入れた方がよいと思う。(委員)
- ・図の中に入れるのは正直に言って難しい。例えば、実際に農業の担い手とか個々の動きが出ている。この図はこの図で基本線だが、そういう組織体は復興計画にとらわれる必要はないと考える。(事務局)
- ・自然災害の教訓を伝える資料の整備と言うことが計画に書かれているが、防災意識向上のためにも、防災について今後も勉強し続け、どうしていったらよいかということ、具体的に考えていく組織

が必要と思う。どういう形が良いのかは分からないが、そのところに有識者を招いた勉強会なども含めて、防災意識向上のため、実際に今度はどう住民防災組織につなげていくかということを考えていくためにもそういった組織が必要だと思う。(副会長)

- ・町は、平成 27 年度に新たな町の計画を作る。この間、川島町政になってから後期の計画を地区ごとに話し合っただけで、防災についても消防団とか枠を広げて検討してきたものを入れてきたけれど、その間にこういう大きな災害が起きてしまって、もう一度練り直さなければいけないということになって、消防団以外の人も入れて地域で危険な箇所などを話し合った。今後、町としてそれがどう出てくるか分からないが、それを見て、課題があるところ、ここをどうしたほうがいいのかという議論は出来ると思うので、あえてこういう組織を作らなくても地区ごとでも検討は出来ると思う。だが、折角分科会で意見を出してきたことが活きるようなものが入れたらと思う。(委員)
- ・復興計画はこういう形で作るが、皆さんに議論していただいた復興町民会議や分科会の議論のプライバシーは配慮しますが、内容を記録誌としてきちんと残します。今日頂いたご意見なども、どういう形で反映できるのか、復興計画に基づく組織の中でやっていくのか、来年基本構想の見直しの年度になりますので、そういう全体のまちづくりの中での議論の材料としては活かしたいと思っている。こういう形でコンサルに入ってもらって常にご意見を残して、もちろん私たちだけでなく町長をはじめ各管理職に徹底して今後のまちづくりに活かしたいと考えている。(事務局)
- ・復興計画だけではなくて、ここから膨らむようなイメージで、地域ごとに自治区を作るような、上手く連鎖させていって、住民との協同ということをやうまく膨らませていけば、地域自治区といった話にもなっていくのではないかと。(委員)
- ・復興計画は何年か長期をかけてやっていくものであるし、町民については会議に自由に出入りできるようにして欲しい。今回の復興会議のように特定の委員を決めるという方法もあるが、好きなきにきて意見を言えるというような形に出来たらよいと思う。(委員)
- ・窓口があって、そこに行けば話が出来るといった場所が欲しいということか。(委員)
- ・例えば、この会にも誰でも出てきて意見が言えるというのが希望である。(委員)
- ・常にといいだけではなくて、例えば、今日はそういう日にしましょうという形で場をつくることはできるのではないかと。(会長)
- ・意見交換等については、会長がおっしゃったとおりの固定したメンバーというだけではなくても良いが、議論する必要はあると思う。(委員)
- ・全体の推進組織は本部になるところなので「決める」ということが重要となると、誰でも参加というわけにはいかないと思うが、その前段階のところ意見を開くということは出来るのではないかと。(会長)
- ・住民が誰でも自由に参加できる場と言うのが必要だと思う。私たちは公募でここに参加しているがまったくオープンでも必要ではないかと思う。(委員)
- ・今回のように公募で委員を決めるとしたら、5年～10年も委員を続けるということも大変ではないかと。(委員)
- ・組織自体が成長していったり、変化すればよいのではないかと。まずは始めてみて育てるしかない。(委員)
- ・たまたまこういう災害があって大きな被災をしたが、これからは今の気象状況を考えると災害は起きるだろう。大島は町と町民と都と連携してやっているというのを、出来たらずっと継続して、良い復興まちづくりができるような支援を住民としても出来るような、参加できるような組織をぜひ

お願いしたい。(委員)

- ・個人的には、この組織をつくるにしてもモタモタやるのはまずいと思う。一定のテンポよくやっていくことが必要だと思う。大変だと思うが、なるべく早くこの組織を立ち上げて欲しいと思う。(会長)
- ・これまでの反省だが、全体会で何を話し合うかというところについて、報告があってそれに対して質疑というだけでももったいないと感じた。今日後半話された今後どうするかというような話は、全体会で話して、今日さらにそれを詰めるというのでもよかったのではないか。全体の推進組織がどうなるか分からないが、それぞれの会議の役割がはっきりしていると、そこで何を話しどこまで話すかという目的がわかってみなが集まったほうがよい。あとは分科会で話してというのであれば、折角集まるのにももったいないという感想である。(委員)

#### ○閉会

- ・この分科会は、今日で最後である。4ヶ月間おつかれさまでした。また新しい組織でスタートを切ることになるが、その時には、皆で力を合わせて協力して宜しくお願いしたい。(会長)

以上